

事業概要説明書 [1]		事業番号	1-12		
事務事業名	みやざきブランド定着推進事業	担当部名	農政部		
事業開始年度	平成 22 年度	担当課名	農政企画課		
実施方法	補助	担当室	農商工連携室		
根拠法令等	—				
事業の概要	目的 〔 何のために 〕	「みやざき」産農畜産物の消費拡大と「みやざき」ブランドの定着を図る。			
	対象・手段 〔 誰(何)に対して、何をするのか 〕	<p>「みやざき」の農畜産物の消費拡大やブランドの定着化等を推進する取組に対して補助する。</p> <p>事業名：①みやざき中央農産物ファン拡大事業 ②農畜産物ブランド連携推進事業</p> <p>対象者：みやざき中央農産物ファン拡大事業委員会</p> <p>手段：①消費宣伝、メディアの利用、生産者と消費者との交流、産地・生産者紹介等「みやざき」産の農産物のPR活動 ②本市で行われるプロ野球球団のキャンプやゲーム及び関連するイベントにおいて行う「みやざき」産農畜産物のPR活動</p> <p>補助率：①3分の1以内 ②2分の1以内</p>			
	事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みやざき」産農畜産物の消費拡大を図らなかった場合、海外を含めた他の産地のものに置き換わる。</li> <li>ブランドの確立を図らなかった場合は、海外を含めた他の産地との差別化が図られず、安値で取り引きされる。</li> </ul>			
コスト	平成23年度(予算)		人件費		
	直接事業費 (A)	7,975 千円	職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数
	人件費 (B)	1,500 千円	正規職員	1,500 千円	0.2 人
	総事業費 (A+B)	9,475 千円	嘱託員	0 千円	0 人
平成23年度 直接事業費内訳	<p>①みやざき中央農産物ファン拡大事業 (補助金)宮崎市5,276千円、国富町1,236千円、生産者6,600千円、JA8,492千円 合計21,604千円(旅費)88千円</p> <p>②農畜産物ブランド連携推進事業 (補助金)宮崎市2,346千円、JA2,705千円 合計5,206千円(旅費)155千円</p> <p>③みやざきブランド推進中部地域本部負担金(負担金)110千円</p>				

事業概要説明書 [2]		事業番号	1-12		
年度		平成22年度(決算)		平成23年度(予算)	
直接事業費		7,716 千円		7,975 千円	
財源	一般財源	7,716 千円		7,975 千円	
	受益者負担金	0 千円		0 千円	
	その他	0 千円		0 千円	
成果目標 〔 どういふ状態 を目指すのか 〕	<p>①「みやざき」ブランドが確立、定着し、認知度が向上する。 ②「みやざき」産農畜産物の消費を拡大する。</p>				
成果実績 〔 成果目標の 達成状況等 〕	[状況]	想定した成果を得ている			
	[説明]	<p>①平成22年度からブランド認証取得推進事業によりブランドの確立を図っている。ブランド認証取得には、調査研究等に複数年を要することから、平成22年度では新規の認証取得は得られていないが、引き続きコチョウランのブランド認証取得に向け調査研究に取り組むこととしている。(平成13年度～19年度までに9品目認証済み) ②鳥インフルエンザ、新燃岳噴火の影響により販売額が減少し、販売目標額に達しなかったものの、概ね目標とする成果を得られた。</p>			
成果指標 〔 事業の実績 及び目標 〕	指標名 (下段:指標の説明)	単位	数値 (上段:目標 / 下段:実績)		
			平成21年度	平成22年度	平成23年度
	商品ブランド認証数	件	—	9	10
	ブランド認証品目数		—	9	
	プロ野球キャンプ等における農畜産物販売額	千円	—	4,000	4,000
	ホークススピレッジ(春季キャンプ2月) ヤフードーム(4月)での農畜産物販売額		—	3,719	
事業の方向性 〔 事業の現状と 課題、今後の あり方等 〕	<p>農家の所得向上を目指す上で、消費者に対し安全・安心で高品質な「みやざき」産農畜産物をPRすることは必要不可欠である。 本事業は、2つの事業を合わせて平成22年度新規事業となった経緯があるが、「みやざき中央農産物ファン拡大事業」は平成16年度から、生産者が事業費の負担をするなど、生産者、JA、行政が一丸となって取り組んでいる。 今後も、産地イメージの定着と「みやざき」ブランドの確立、農畜産物の消費拡大を図るために、継続的な取組を推進していきたい。</p>				
特記事項 〔 参考情報等 〕	<p>「みやざきブランド定着推進事業」に至った経緯 H11～13年度 農産物PR事業 H14～15年度 農産物ブランド連携推進事業 H16～18年度 みやざき中央農産物ブランド推進事業 H19～21年度 宮崎中央農産物ブランド確立事業 H22～ みやざきブランド定着推進事業</p>				

# みやざきブランド定着推進事業 資料

## 1 宮崎市の農業

本市の農業は、冬季温暖で日照時間の長い気候条件を活かし、古くから野菜や果樹などの施設園芸を中心に食料供給基地として発展しており、重要な基幹産業の一つです。

## 2 宮崎市の農業に関する計画

本市では、農林水産業振興のため「第10次宮崎市農林水産業振興基本計画（計画期間：平成19～23年度）」を策定しています。この計画には6つの基本目標があり、その一つに“みやざきブランドを確立し、「食」と「農」のPRに努めよう”を掲げています。

現在、第11次計画の策定（計画期間：平成24～28年度）に取り組んでいます。

（参考）

第10次計画策定にあたり、平成18年10月に実施した市民アンケートの結果では、「宮崎では安全・安心にこだわった高品質な農畜産物が多く生産されており、そのことをもっとPRすべき」という意見が得られました。

## 3 農業に関するデータ

### ○農業産出額

本市の農業産出額は418億4千万円で、全国1,700余りの市町村の中で第11位です。特に野菜は全国で4位とトップクラスです。（H18年「生産農業所得統計」より）

### ○農家1戸当たりの生産農業所得

宮崎県 187万8千円／年（H18年「生産農業所得統計」より）

### ○農産物販売額500万円／年以上の経営体数

1,748経営体 全体（4,333）の40.3%（2010年「世界農林業センサス」速報値より）

### ○農業・食料関連産業の国内総生産額

食料産業全体で生み出される「付加価値」44.7兆円のうち、農林漁業者の取り分は全体の約1割の5.3兆円に過ぎません。（H20年「農業・食料関連産業の国内総生産」より）

## 4 H22年度「みやざきブランド定着推進事業」の主な活動実績

### ①みやざき中央農産物ファン拡大事業

【農産物提供によるPR】 実施回数：20回

- ・ダンロップフェニックストーナメント  
11月〈フェニックスCC〉
- ・LPGAツアーチャンピオンシップリコー  
カップ 11月〈宮崎CC〉など



リコーカップで野菜PR

**【試食宣伝によるPR】 実施回数：66回**

- ・北海道のスーパー 4月 1回
- ・関東圏のスーパー等 4月～ 21回
- ・関西圏のスーパー等 4月～ 25回
- ・中部圏のスーパー等 7月～ 5回
- ・九州圏のスーパー等 5月～ 4回
- ・宮崎市内のスーパー等 4月～ 10回



生産者が直接PR販売

**【消費者・バイヤーとの交流によるPR】 実施回数：12回**

- ・市場担当者、量販店バイヤー産地研修 11～12月〈圃場他〉
- ・小学校食育教室 4～11月 など

**【女性生産者研修】 実施回数：1回**

- ・販路拡大等に関する研修 11月  
〈サンホテルフェニックス〉

**【マスコミによるPR】 実施回数：14回**

- ・テレビ神奈川「ハマランチョ」での産地  
やレシピ紹介 5～3月
- ・NHK「クイズでGO ローカル線の旅」12月 など



市場での研修



NHKの番組で農畜産物をPR



女性生産者研修

**②農畜産物ブランド連携推進事業**

**【プロ野球のキャンプ等でのPR】 実施回数：8回**

- ・生産者による農産物のPR販売、始球式 6月〈福岡ヤフードーム〉
- ・ジャイアンツ沢村投手の農業体験 2月〈畜舎〉など



来場者へ野菜のプレゼント



生産者がマンゴーをPR